

|       |           |       |              |                                          |                                                                                                                                                                                                                                                    |    |
|-------|-----------|-------|--------------|------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 90130 | 2009/4/24 | 90139 | C型肝炎         | 日本血液事業学会第32回総会                           | 1999年7月～2008年3月までにNATで検出された111本のHCV-RNA陽性検体のGenotype解析の結果、Genotype 2aが最も多く、1bと2bがほぼ同数であった。                                                                                                                                                         | 4  |
| 90130 | 2009/4/24 | 90139 | E型肝炎         | AABB Annual Meeting and TXPO 2008        | 2005～2007年に北海道で実施したプールNATによるHEV-RNAスクリーニングの結果、献血者の約1/8,300はHEV-RNA陽性であった。ほとんどの献血者は動物内臓を摂取しており、無症候性であったが、ウイルス血症は数ヶ月間持続した。                                                                                                                           | 5  |
| 90130 | 2009/4/24 | 90139 | E型肝炎         | Clin Infect Dis 2009; 48: 373-374        | 急性白血病の33歳の男性がE型肝炎を発症し、HEV遺伝子検査の結果、重複する時期に同じ病棟に入院していた別のE型肝炎患者から感染していたことが示唆された。                                                                                                                                                                      | 6  |
| 90103 | 2009/3/26 | 81038 | E型肝炎         | Transfusion 2008; 48: 1368-1375          | 2004年9月20日に39歳日本人男性から献血された血液はALT高値のため不適当とされ、HEV陽性であった。当該ドナーの遡及調査の結果、9月6日にも献血を行い、HEV RNAを含有する血小板が輸血されていた。当該ドナーと親戚は8月14日にブタの焼肉を食べており、父親は9月14日に急性肝炎を発症し、E型劇症肝炎で死亡した。他に7名がHEV陽性であった。レシピエントは輸血22日目にALTが上昇し、HEVが検出された。                                   |    |
| 90130 | 2009/4/24 | 90139 | E型肝炎         | Transfusion 2008; 48: 2568-2576          | 日本全国でALT高値のため献血不適となった献血者の血液検体に、HEVマーカー(HEV-RNA及び抗HEV抗体)が認められ、いずれのマーカーとも東日本の法が西より高かった。                                                                                                                                                              | 7  |
| 90100 | 2009/3/19 | 81013 | E型肝炎         | Vox Sanguinis 2008; 95(Suppl.1): 282-283 | 2005年の中国の4都市(Beijing, Urmuchi, KunmingおよびGuangzhou)における供血検体のHEV感染率を調べた。その結果、ルーチン検査(抗HCV、抗HIV1/2、HBsAg、梅毒およびALT)陰性供血者の約1%は抗HEV IgMまたはHEV Ag陽性で、HEV感染の可能性があった。また、ALTスクリーニングは中国のHEV感染血排除に役立つ可能性があった。                                                  |    |
| 90116 | 2009/3/30 | 81068 | HHV-8感染      | Transfusion 2008; 48: Supplement 105A    | 米国の供血者のヘルペスウイルス8(HHV8)ゲノム陽性率について、高感度定量RT-PCR法(検出限界8コピー)より684名の検体を分析したがHHV8ゲノムは検出されず、健康な供血者におけるHHV8陽性率は非常に低い。                                                                                                                                       | 8  |
| 90116 | 2009/3/30 | 81068 | HIV          | Eurosurveillance 2008; 13(50): 19066     | ヨーロッパにおいて報告された人口100万人当たりの新規HIV感染率は、2000年以降ほぼ2倍となった。2007年は、当該地域53カ国中49カ国から合計48,892例のHIV感染が報告され、エストニア、ウクライナ、ポルトガルとモルドバ共和国で感染率が最も高かった。                                                                                                                | 9  |
| 90145 | 2009/5/1  | 90184 | アメリカトリパノソーマ症 | AABB Annual Meeting and TXPO 2008-3      | 米国で2007年から開始された供血者に対するT. cruziスクリーニング検査の結果、2007年1月29日～2008年1月28日の陽性率は1/30,000であったが、受血者には明白な感染症例はなかった。最も陽性率が高い地域はフロリダ南部であった。                                                                                                                        | 10 |
| 90145 | 2009/5/1  | 90184 | アメリカトリパノソーマ症 | Transfusion 2008; 48: 1862-1868          | スペイン、カタルーニャ血液銀行は、高リスク供血者におけるシャーガス病スクリーニング計画を実行し、供血者集団でTrypanosoma cruzi(T. cruzi)感染の血清学的陽性率を調査した。その結果、全体の陽性率は0.62%(1770名中11名)で、最も陽性率が高かったのはボリビア人であった(10.2%)。陽性者11名中1名は、シャーガス病流行地域に数年間滞在したことのあるスペイン人であった。非流行国の高リスク供血者にT. cruziスクリーニング検査を実施する必要性がある。 |    |

|       |           |       |         |                                               |                                                                                                                                                                                                                                      |    |
|-------|-----------|-------|---------|-----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 90130 | 2009/4/24 | 90139 | インフルエンザ | ProMED-mail20080825.2648                      | タミフル耐性型の「通常の」季節性インフルエンザが急速に拡大しており、南アフリカでは今年の冬(2008~2009年)のインフルエンザに効果がないおそれがある。WHOのデータによると同国でH1N1株に感染した107名に関する検査の結果、全員がタミフルに耐性の突然変異株を保有していた。2008年4月1日から8月20日に南半球の12カ国のH1N1インフルエンザ感染患者由来検体788例中242例(31%)がタミフル耐性に関係があるH274Y突然変異を有していた。 |    |
| 90130 | 2009/4/24 | 90139 | ウイルス感染  | BuaNews online 2008年10月13日                    | 南アフリカ、ヨハネスブルグで3名の死者を出したウイルスは、暫定的に西アフリカのラッサウイルスに近い、齧歯類媒介性アレナウイルスであると特定された。国立感染症研究所と保健省は共同で、このウイルスが体液を介してヒトからヒトに感染するため、「患者の看護に特別な予防的措置が必要である」との声明を発表した。3名の死因を確定するには更なる検査が必要である。                                                        |    |
| 90136 | 2009/4/27 | 90147 | ウイルス感染  | PNAS 2008; 105: 14124-14129                   | 新規ヒトカルジオウイルス7株についての報告。                                                                                                                                                                                                               |    |
| 90125 | 2009/4/23 | 90119 | ウイルス感染  | Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129 | インフルエンザ様疾患の小児の呼吸分泌物中から、汎ウイルスマイクロアレイ法を用いて、初めてヒトカルジオウイルスを同定した。系統遺伝学的分析から、このウイルスはTheilerのネズミ脳脊髄炎ウイルス亜型に属し、Saffoldウイルスと最も近縁であった。また、胃腸疾患患者群498名から得た751例の糞便検体中6検体からカルジオウイルスが検出された。                                                         |    |
| 90129 | 2009/4/23 | 90123 | ウイルス感染  | ProMED-mail20081028.3409                      | 2008年10月初旬に南アフリカでアレナウイルスによる感染のアウトブレイクが同定された。9月12日から10月24日までに計5例が報告され、5例中4例が死亡し、1例は入院中である。死亡した4例では発病から死亡まで9~12日間であった。塩基配列分析より、ユニークな旧世界アレナウイルスが原因であることが明らかとなった。現在のところ新たな疑い症例はない。                                                       |    |
| 90117 | 2009/4/1  | 90003 | ウイルス感染  | ProMED-mail20090129-0400                      | ユンガンウイルスは、マウスにおいて胎児死亡や奇形を起こすことが知られているが、疫学的データから、ヒトにおいても子宮内胎児死亡に関連していることが示唆された。                                                                                                                                                       | 11 |
| 90130 | 2009/4/24 | 90139 | ウイルス感染  | ProMED-mail20090218.0669                      | ナイジェリアでは、2008年1月から12月にかけて、229人のラッサ熱感染疑い患者が報告され、30人が死亡している。また、2008年12月~2009年1月に、感染疑い患者及び感染確定患者はそれぞれ60%及び80%増加している。                                                                                                                    | 12 |
| 90147 | 2009/5/20 | 90188 | ウイルス感染  | ProMED-mail20090402.1272                      | サンパウロ奥地において2009年2月より黄熱が流行しており、その中で母子感染が確認された。初の黄熱の母子感染報告である。                                                                                                                                                                         | 13 |
| 90148 | 2009/5/22 | 90189 | ウイルス感染  | WHO/EPR 2008年10月13日                           | 南アフリカとザンビア出身者の最近の死亡例3例はアレナウイルス科のウイルスが原因あることが、NICDおよびCDCで行われた検査の結果明らかとなった。詳細な分析が継続されている。一方、南アフリカでは患者と密接に接触した看護師が感染し、入院中である。                                                                                                           |    |
| 90147 | 2009/5/20 | 90188 | ウイルス性脳炎 | CDC/MMWR 2009; 58: 4-7                        | 米国ウエストバージニアで妊婦における初めてのラクロス脳炎ウイルス(LACV)感染が見つり、その後、分娩時の臍帯血からLACV抗体が検出され垂直感染が疑われたが、出生後6ヶ月までLACV感染兆候は見られていない。親が子の血清検体採取を拒否しており感染は確定できていない。                                                                                               | 14 |

|       |           |       |                       |                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                     |    |
|-------|-----------|-------|-----------------------|--------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 90117 | 2009/4/1  | 90003 | ウイルス性<br>脳炎           | ProMED-<br>mail20080828.2<br>697                             | インド東部のウッタラプラデシュ州で小児を死亡させている原因不明のウイルスは、インド保健省の専門家らにより急性脳炎症候群と診断された。同州の13の地区では、数週間におよそ800人の患者が発生し150人が死亡したと報告され、その数は増加すると見られている。血液検査で日本脳炎陽性となった患者は5%以下であった。日本脳炎とエンテロウイルスとの混合感染の可能性について調査中である。                                                         |    |
| 90116 | 2009/3/30 | 81068 | ウエストナ<br>イルウイル<br>ス   | ABC<br>Newsletter<br>No.38 2008年<br>10月17日                   | 2008年9月に、イタリアで何年かぶりにヒトのウエストナイルウイルス(WNV)脳炎が2例報告された。1例目はFerraraとBolognaの間に住む80歳代の女性、2例目はFerraraに住む60代後半の男性であった。また、ウマ6頭とトリ13羽でWNV感染が確認された。WNV髄膜脳炎の積極的サーベイランスプログラムが開始され、当該地域で供血者スクリーニング用NATが導入された。また、当該地域に1日以上滞在したことのある供血者を28日間供血延期する措置がとられた。           |    |
| 90099 | 2009/3/19 | 81012 | エボラ出血                 | OIE<br>(December 23,<br>2009)                                | フィリピンマニラの農場で2008年10月にブタで始めてエボラレストンウイルスが確認され、2009年1月には当該農場の労働者少なくとも1名で抗体陽性を示した。同ウイルスのブタからヒトへの感染を示す初の報告。                                                                                                                                              | 15 |
| 90136 | 2009/4/27 | 90147 | エボラ出血                 | WHO (2009年2<br>月3日)                                          | 2009年1月23日、フィリピンにおいてブタからの感染と考えられるエボラウイルス・レストン株抗体陽性者が確認され、1月30日、さらに4例の抗体陽性者が確認されている。現在まで抗体陽性者の健康状態は良好であり、過去12ヶ月以内に主だった症状を呈していない。                                                                                                                     | 16 |
| 90130 | 2009/4/24 | 90139 | クロイツフェ<br>ルト・ヤコブ<br>病 | Emerg Infect<br>Dis 2009; 15:<br>265-271                     | 孤発性CJD (sCJD)と医学的処置との関連性を解明するために、日本における1999～2008年の期間にCJDサーベイランス委員会に登録された患者について分析した。その結果、sCJD発症前に施行された医学的処置によりプリオン病が感染した証拠はみつからなかった。                                                                                                                 | 17 |
| 90116 | 2009/3/30 | 81068 | クロイツフェ<br>ルト・ヤコブ<br>病 | J Neurol<br>Neurosurg<br>Psychiatry<br>2008; 79: 229-<br>231 | オーストリアの39歳男性が感覚異常などの神経症状で入院後、急速に悪化し、4ヶ月後に死亡した。組織学的検査で海綿状変化、神経細胞脱落及びグリオシスが、免疫組織化学的検査でびまん性シナプティックな異常プリオンの沈着が見られ、CJDと診断された。また患者のPRNPは129Met-Metであった。患者は22年前まで死体由来のヒト成長ホルモン(hGH)製剤治療を受けており、医源性リスクが認められるため、孤発性若年性CJDの可能性も否定できないが、WHO基準により確定医源性CJDと分類された。 |    |
| 90117 | 2009/4/1  | 90003 | コレラ                   | CDC/Travelers<br>' Health 2009年<br>2月4日                      | ジンバブエ保健当局からのコレラアウトブレイクの報告。2008年8月26日から2009年1月31日までに61,304例の感染疑い、3,181例の死亡。また、ボツワナ、モザンビーク、ケニア、マラウイ、ナミビア、ナイジェリア、ギニアビサウ及びトーゴといった周辺国からも発生が報告されている。                                                                                                      | 18 |
| 90100 | 2009/3/19 | 81013 | チクングニ<br>ヤウイルス<br>感染  | Transfusion<br>2008; 48: 1333-<br>1341                       | 2005年から2007年に、チクングニヤウイルス(CHIKV)はレユニオン島で大流行し、供血は2006年1月に中断された。大流行中のウイルス血症血供の平均リスクは、10万供血あたり132と推定された。2006年2月の最流行時におけるリスクは、10万供血あたり1500と最高であった。この期間中、757000人の住民のうち推定312500人が感染した。2006年1月から5月の平均推定リスク(0.7%)は、CHIKV NAT検査による血小板供血のリスク(0.4%)と同じオーダーであった。 |    |
| 90100 | 2009/3/19 | 81013 | デング熱                  | Transfusion<br>2008; 48: 1342-<br>1347                       | 高力価の培養デングウイルス セロタイプ2をアルブミンおよび免疫グロブリンの各種製造工程(低温エタノール分画、陽イオン交換クロマトグラフィー、低温殺菌、S/D処理およびウイルスろ過)前の検体に加え、各工程での同ウイルスのクリアランスをVero E6細胞培養におけるTCID50アッセイおよびRT-PCRで測定した。その結果、全ての工程が不活化・除去に有効であることが示された。                                                         |    |

|       |           |       |         |                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                 |    |
|-------|-----------|-------|---------|--------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 90100 | 2009/3/19 | 81013 | デング熱    | Transfusion<br>2008; 48: 1348-1354   | 2005年9月20日～12月4日のプエルトリコの米国赤十字におけるすべての供血16521検体中のデングウイルス(DENV) RNAをTMA(transcription-mediated amplification)法で測定したところ、12検体(0.07%)がTMA陽性であった。4検体は、RT-PCR(DENVセロタイプ2および3)陽性であった。RT-PCR陽性4検体中3検体でウイルスを培養することができた。TMA陽性12検体中1検体がIgM陽性であった。1:16に希釈した場合は5検体のみTMA陽性であった |    |
| 90112 | 2009/3/27 | 81052 | バベシア症   | Clin Infect Dis<br>2008; 48: 25-30   | FDAはBPDR(生物学的製剤逸脱報告システム)により、2005年に2例、2006年に3例、2007年に3例の輸血によるバベシア症感染報告を受けていた。受血者は輸血後2.5～7週で症状が進行し、2ヶ月以内に死亡した。                                                                                                                                                    | 19 |
| 90103 | 2009/3/26 | 81038 | パルボウイルス | Lab Hematol<br>2007; 13: 34-38       | 血漿交換、コルチコステロイドおよびコリンエステラーゼ阻害剤による治療を受けていた重症筋無力症患者が、アルブミンを用いた血漿交換を行った2週後にパルボウイルスB19感染による赤芽球減少症と診断された。アルブミン由来感染かどうかを確定することはできなかったが、アルブミンなどの血液製剤によるB19感染を除外することはできない。                                                                                               |    |
| 90145 | 2009/5/1  | 90184 | マラリア    | AABB Annual Meeting and TXPO 2008-4  | オーストラリア赤十字は2005年7月から、マラリア感染のリスクのある供血者に対し、従来の医療歴・渡航歴の収集から、リスクへの暴露を特定した時から最低4ヶ月間のマラリア抗体のスクリーニングを実施する代替戦略を導入した結果、既存の供血者に由来する輸血可能な製剤の製造効率著しく向上し、輸血伝播マラリア症例の報告もなかった。                                                                                                 | 20 |
| 90145 | 2009/5/1  | 90184 | マラリア    | Am J Trop Med Hyg 2009; 80: 215-217  | 1997年より韓国軍はヒドロキシクロロキン及びプリマキンを用いた予防的薬療法を実施し、マラリア患者の急増を防ぐことができたが、調査登録患者484名中2名にクロロキン耐性Plasmodium vivaxを確認した。                                                                                                                                                      | 21 |
| 90129 | 2009/4/23 | 90123 | マラリア    | CDC/MMWR<br>2009; 58: 229-232        | 近年、5番目のマラリア原虫として、サルマラリアであるPlasmodium knowlesiのヒトへの感染例がマレーシア及びその周辺において多数確認されており、人畜共通感染症の病原体として新興している可能性が示されている。                                                                                                                                                  | 22 |
| 90145 | 2009/5/1  | 90184 | マラリア    | Emerg Infect Dis 2008; 14: 1434-1436 | 2007年にマレー半島でフィンランドの旅行者が、通常はサルにおけるマラリアの原因となる二日熱マラリア原虫に感染した。二日熱マラリア原虫はヒトマラリアを引き起こす第5のマラリア原虫種として確立された。この疾病は生命を脅かす危険があり、臨床医と臨床検査技師は旅行者においてこの病原体を更に注意すべきである。                                                                                                         |    |
| 90145 | 2009/5/1  | 90184 | リケッチア症  | CDC/MMWR<br>2008; 57: 1145-1148      | 米国ミネソタ州の68歳男性が、2007年10月12～21日に手術後の輸血を受け、敗血症および多臓器不全をきたした後、10月31日に発熱を伴う急性血小板減少症を発現し、11月3～5日の血液検体からPCR及び抗体検査でアナプラズマ症感染が確認された。血液ドナーの1人にA. phagocytophilum陽性がPCR及びIFA検査で確認され、血液ドナーに感染源が確認された初の事例となった。                                                               |    |
| 90145 | 2009/5/1  | 90184 | リケッチア症  | JAMA 2008; 300: 2263-2270            | 中国安徽省でヒト顆粒球性アナプラズマ症(HGA)と症状が一致する患者は、2006年10月30日に発症し、11月5日に死亡した。確定診断はされなかったが、発症する12日前にダニに刺されていた。11月9-11日に、この患者の血液および呼吸器分泌物との直接接触によると疑われる症例9例が報告され、HGAと確定診断された。中国におけるHGA症例の初めての報告である。                                                                             | 23 |
| 90097 | 2009/3/26 | 80995 | リケッチア症  | ProMED-mail20080728.2306             | オランダ・ブラバント州の公衆衛生局が行った調査でQ熱の症例報告数が急激に増加し、2008年7月21日付けで491症例が報告されている。感染症管理センター長によると、実際の感染者数は報告された症例数の10倍であると思われる。2007年まではQ熱はオランダではほとんど存在しなかった。                                                                                                                    |    |

|       |           |       |                 |                                                             |                                                                                                                                                                                                                                            |    |
|-------|-----------|-------|-----------------|-------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 90153 | 2009/5/25 | 90196 | リケッチア症          | 日本細菌学会<br>第82回総会<br>P2-182                                  | Anaplasma phagocytophilumによるアナプラズマ症の本邦初の症例。2002～2003年の高知県で日本紅斑熱が疑われた18例の血餅から、2例で、A. phagocytophilumに特異的なp44/msp2外膜蛋白遺伝子群のPCR産物が検出された。                                                                                                      | 24 |
| 90117 | 2009/4/1  | 90003 | レトロウイルス         | 第56回日本ウイルス学会学術集会(2008年10月27日)                               | 日本国内の前立腺がん患者30例の血清のうち2例からGagに対する特異的抗体反応が認められ、そのうち1例からはXMRV(Xenotropic MuLV-related virus)核酸を検出した。また、献血者120例中5例でもGagに対する特異的抗体反応が認められた。日本国内の前立腺がん患者集団中にもXMRV感染が存在することが示唆された。                                                                 | 25 |
| 90145 | 2009/5/1  | 90184 | リケッチア症          | Transfusion<br>2008; 48: 2177-2183                          | 米国。ルーチンの細菌培養スクリーニングを実施したプール血小板の輸血を受けた患者が、C群連鎖球菌感染症により死亡した。遡及調査の結果、無症候性の供血者が原因と考えられた。現在の検査法の限界を示す報告。                                                                                                                                        | 26 |
| 90116 | 2009/3/30 | 81068 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | 2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日                                  | CJDサーベイランス委員会による調査では1999年4月から2008年2月までの9年間に日本国内で1069例がプリオン病と判定された。うち孤発性CJDが821例(76.8%)、遺伝性プリオン病が171例(16.0%)、硬膜移植後CJD74例(6.9%)、変異型CJD1例(0.1%)、分類不能2例(0.2%)であった。日本のプリオン病剖検率は欧米諸国より著明に低かった。孤発性CJDの病型は欧米に比べMM2型が多かったが、非典型例が多く剖検されている可能性が考えられた。 |    |
| 90116 | 2009/3/30 | 81068 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | 2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日<br>ポスター11                        | ウイルス除去膜濾過工程を含んでいる製剤(血液凝固第VIII因子製剤: プラノバ20N濾過、抗HBs人免疫グロブリン製剤: プラノバ35N濾過)について、263K株感染ハムスターより得たSUS処理PrPScを用いて、その除去効果を検証した。その結果、SUS処理PrPScは濾過膜の孔径よりも小さいにもかかわらず、プラノバ35Nやプラノバ20Nで除去された。PrPScが凝集したり、膜へ吸着したためと考えられる。                               |    |
| 90116 | 2009/3/30 | 81068 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | 2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日<br>ポスター18                        | スクレイピー263K感染ハムスター脳乳剤を脳内接種したハムスターにおける血中PrPres経時的变化を追跡したところ、PK抵抗性3F4反応性蛋白バンドは、感染後4～6週で認められ、10週ではほぼ消失した。発症末期では血中PrPresと見られる蛋白バンドは認められなかった。PrPresをマーカーとした血液検査は感染後発症前～発症中期までに限定される可能性が示唆された。                                                    |    |
| 90112 | 2009/3/27 | 81052 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | American Society of Hematology/Press Releases<br>2008年8月28日 | Blood誌のprepublished onlineに掲載されたヒツジにおける研究によると、輸血によるBSE伝播のリスクは驚くほど高い。エジンバラ大学で行われた9年間の研究は、BSEまたはスクレイピーに感染したヒツジからの輸血による疾病伝播率を比較した。その結果、BSEおよびスクレイピーとも輸血によりヒツジに効率よく伝播された。症状を呈する前のドナーから採取された血液によっても伝播することが示された。                                 |    |
| 90116 | 2009/3/30 | 81068 | 異型クロイツフェルト・ヤコブ病 | Blood,<br>Prepublished online 2008年7月22日                    | ヒツジを用いた感染実験において、BSEは36%、スクレイピーは43%と予想以上に高い輸血伝播率を示した。高い伝播率および臨床的に陽性のレシピエントにおける比較的短期間の一定した潜伏期間は、血中の感染性力価が高いことおよびTSEが輸血により効率的に伝播することを示唆する。血液製剤によるヒトでのvCJD伝播を研究するために、ヒツジが有用なモデルであることが示された。                                                     |    |